

LEXUS TEAM ZENT CERUMO

2018 AUTOBACS SUPER GT Report

FUJI GT 500mile

第5戦 富士スピードウェイ

ZENT CERUMO LC500

#38 立川祐路／石浦宏明

◆8月4日（土） QUALIFY

公式予選総合結果 出走せず



南国タイで開催された SUPER GT 第4戦から約1ヶ月。舞台はふたたび日本に戻り、LEXUS TEAM ZENT CERUMO のホームレースである第5戦『FUJI GT 500mile RACE』を迎えた。昨年までは通常の300kmレースだった夏の富士での一戦だが、今季からカレンダーの変更により、シリーズ

最長の500マイル=約804kmというレース距離となった。

SUPER GTでは、レース距離が700km以上の場合、通常のレースよりもポイントが多く加算できる。昨年までの鈴鹿1000kmがそうだったように、シリーズランキングを考えると非常に重要なレースだ。日本に戻ってきた ZENT CERUMO LC500は、チームによってしっかりとメンテナンスされ、8月4日（土）の公式練習に備えた。

今季、ZENT CERUMO LC500は走り出しのフィーリングに違和感を抱えることが多かった。もちろんチームによって予選、決勝までには調子を上げていたのだが、SUPER GTでは走り出しから好調でなければ優勝を争うのは厳しい。立川祐路、石浦宏明のふたりは村田卓児エンジニアと前日まで綿密な打合せを行っていたが、タイを思わせる酷暑のなか、午前8時40分からスタートした公

ZENT

LEXUS

Racing Development
TRD

BRIDGESTONE

EXEDY

PMU
RACING PADS

WAKOS

asics

BBS

AST Inc.
Automotive Imaging Transportation

PREMIUM WATER
Bottled Water Bottlers Service

TAMACHI

GIRO

LEXUS TEAM ZENT CERUMO

式練習で立川が ZENT CERUMO LC500 をドライブしだすと、非常に良好なフィーリングを感じ取った。



立川はピットインすると、予選 Q1 のアタッカーを務めるはずだった石浦宏明にステアリングを渡す前に、一度タイヤを履き替え、ニュータイヤでのアタックをトライしに行く。アウトラップから 1 周タイヤをウォーミングアップし、メインストレートを快調に駆け抜けると、フルブレーキングする TGR

コーナーに差しかかる。

しかしブレーキペダルを踏んだ瞬間、立川は異変を感じ取った。ブレーキが効かない！ 時速 300km に近い速度から一気に減速する TGR コーナーで、立川は危険を一瞬で察知すると、ステアリングを切り ZENT CERUMO LC500 をスピン状態に追い込んだ。真っ直ぐ向いたままタイヤバリアにヒットしてしまうのは、間違いなく怪我をする危険なクラッシュになってしまうからだ。

ただそれでも、ZENT CERUMO LC500 のスピードは落ちない。TGR コーナーのイン側を滑った ZENT CERUMO LC500 は、その前を走っていた GT300 クラスの No.34 NSX GT3 に真っ直ぐ突っ込んでいってしまい、そのまま激しくクラッシュしてしまう。ZENT CERUMO LC500 はフロント、そしてリヤを大破しながら、タイヤバリアまで滑りヒット。ようやくストップした。

ZENT CERUMO LC500 のフロントからは火災も発生したが、オフィシャルの迅速な作業もあり、立川は冷静にコックピットから脱出した。また、No.34 NSX GT3 の道上龍選手も、オフィシャルによって適切な処置を受け救出され、大きな怪我はなかった。一方、そのまま FRO（ファースト・レスキュー・オペレーション）によりチェックを受けた立川は、メディカルセンターに搬送された後、御殿場市内の病院で診察を受けた。

ZENT

LEXUS

Racing Development
TRD

BRIDGESTONE

EXEDY

PMU
RACING PADS

WAKOS

asics

BBS

AST Inc.
Automotive Imaging & Transportation

PREMIUM WATER
High-purity Water for Sports & Events

TAMACHI

GIRO

LEXUS TEAM ZENT CERUMO

不幸中の幸いと言えるだろうか、立川は左足の打撲でふたたび富士スピードウェイに戻ってくることができた。トラブルによる事故とは言え、クラッシュしてしまった No.34 NSX GT3 はリヤを大破してしまっており、立川は浜島裕英監督とともに Modulo Drago CORSE のピットに向かうと、ヒットしてしまった道上選手に謝罪した。

ZENT CERUMO LC500 は大きなダメージを負ってしまったが、LEXUS TEAM ZENT CERUMO は車両の修復を決め、午後の公式予選こそ出走できなかったものの、レース復帰を目指し現在も作業を続けている。立川の足の状態も気になるところだが、レースは長丁場であり、立川自身もレースへの参戦の意志を示している。



ドライバー／立川祐路

「ニュータイヤでコースインし、アタックしようというタイミングで、ブレーキトラブルが起きてしまいました。瞬間的に壊れたことは分かりましたが、どうすることもできずクラッシュすることになってしまいました。ファンの皆さん、関係者の皆さんにはご心配をおかけしましたが、とりあえず足を打撲しただけで、現代のレーシングカーの安全性に助けられたと思っています。ただ、どうにもできなかった状態とは言え、Modulo Drago CORSE の車両に大きなダメージを負わせてしまったのは本当に申し訳ないと思っています。明日に向けてクルマも直すつもりですし、足の状態にちょっと不安はありますが、しっかりと走りきれるようにしたいと思います」

ドライバー／石浦宏明

「今まで走り出しの調子が悪かったので、前日からいろいろなセットアップの方向性を検討していました。その甲斐もあって、走り出しの立川選手のタイムも良かったですし、いろいろな組み立ても早くできていましたが、順調に進んでいたところでのクラッシュになってしまいました。立川選手に大きな怪我がなかったのは良かったのですが、チームとして Modulo Drago CORSE の皆さん



LEXUS TEAM ZENT CERUMO

に申し訳ない気持ちです。僕は今回、まだ1周も走っていませんが、チームも頑張っていて ZENT CERUMO LC500 を修復してくれているので、明日は僕も精一杯がんばりたいと思います」

浜島裕英監督

「まず、Modulo Drago CORSE の皆さんには大変な迷惑をおかけしてしまって、申し訳なく思っています。そんななか、立川選手が打撲ということで、命に関わる大事に至らなかったのはホッとしています。現在メカニックたちが懸命な努力で車両の修復にかかっていますが、今回はレース距離も長いと考えると、今日負ってしまったハンデも薄まると思います。しっかりとミスなくレースを完走することが大事だと思っています」



ZENT

LEXUS

Racing Development
TRD

BRIDGESTONE

EXEDY

PMU
RACING PADS

WAKOS

asics

BBS

AST Inc.
Automotive Imaging & Transportation

PREMIUM WATER
High-purity Water Delivery Service

TAMACHI

GIRO

LEXUS TEAM ZENT CERUMO

予選結果表

Rank	Car No.	CarName	Q1 Time	Q2 Time
1	23	MOTUL AUTECH GT-R	1'29.006	1'28.461
2	24	フォーラムエンジニアリング ADVAN GT-R	1'29.221	1'28.493
3	36	au TOM'S LC500	1'29.132	1'28.749
4	3	CRAFTSPORTS MOTUL GT-R	1'29.076	1'28.872
5	12	カルソニック IMPUL GT-R	1'29.298	1'29.068
6	19	WedsSport ADVAN LC500	1'29.152	1'29.222
7	1	KeePer TOM'S LC500	1'29.378	1'29.430
8	8	ARTA NSX-GT	1'29.355	1'29.563
9	100	RAYBRIG NSX-GT	1'29.464	
10	64	Epson NSX-GT	1'29.482	
11	39	DENSO KOBELCO SARD LC500	1'29.670	
12	16	MOTUL MUGEN NSX-GT	1'29.683	
13	6	WAKO'S 4CR LC500	1'30.033	
14	17	KEIHIN NSX-GT		
15	38	ZENT CERUMO LC500		

ZENT

